

東委員（民主県政会）

令和4年3月11日  
教育長答弁実録  
(教育委員会)

(問) 教育の担い手の今後の育成について

様々な生活背景をもつ子どもに寄り添った教育を担ってもらうには、教育現場で日々の経験を通して、教員を育てていくしかないと考える。これらの教育の担い手について、採用した教員をいかに育てていくのか、教育長の見解を伺う。

(答)

全ての子供たちは本来、

- ・ できるようになりたい、
- ・ 分かるようになりたい

といった願いや希望を持っており、それに対し、教育のプロである教員は、保護者や地域、関係機関等との連携・協働を図りながら全力で応え、その実現を目指すとともに、児童生徒が自らの主体的な選択と納得によって自ら学ぶように支援する役割を担うものと考えております。

これらのことについて、教員が教育のプロとして実践していくため、教員の目指すべき具体的な姿として「広島県教員等資質向上指標」を示し、人材育成を図っております。

具体的には、この指標におきまして、児童生徒が自ら判断し、行動し、その結果に責任を持つという自己指導能力の育成ができることや、実態に応じてファシリテートし、主体的な学びの授業を展開することができることなどを示すとともに、研修において、児童生徒の伴走者となり、児童生徒の考えを引き出すなどの実践的指導力を身に付ける内容とし、人材育成に取り組んでいるところでございます。

また、研修に加えて、各学校におきまして、校長を中心として、日常的に組織的なOJTを進めることにより、各教員や学校の実態に応じた人材の育成に取り組んでおります。

今後とも、全ての児童生徒の能力と可能性を最大限高める教育の実現を推進していくため、教員の人材育成に積極的に取り組んでまいります。